

7

オプション品

1 加湿器

1
YAES・C-A1,
ES-A1形用
形名: PAC-SF10HU

1. 適用機種

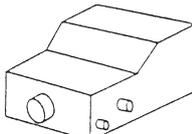
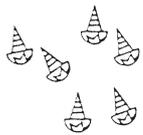
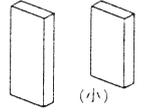
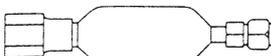
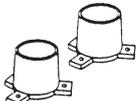
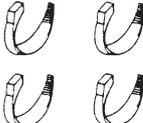
形名	適用機種
PAC-SF10HU	YAES・C-A1形用 YAES・ES-A1形用

仕様

<50/60Hz>

加湿能力	1.0L/h	送風機出力	16W
消費電力	32/32W	送風機風量	1.9m ³ /min
電流	0.18/0.17A	騒音	本体+1dB
力率	89/94%	質量	12kg

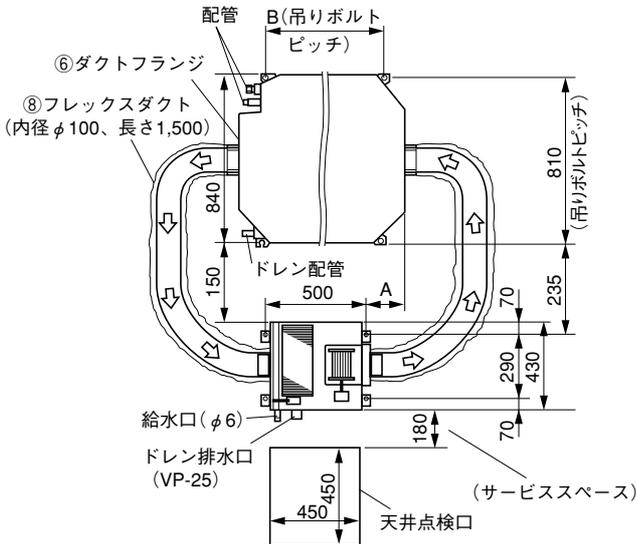
2. 付属部品

①加湿器本体  1ヶ	②タッピングネジ  6ヶ	③配管用断熱材  (大) 16×80×220 (小) 13×120×250 各1枚	④バンド  2本
⑤ストレーナ  1ヶ	⑥ダクトフランジ  2ヶ	⑦ダクトフランジ用断熱材  2ヶ	
⑧フレックス・ダクト 内径φ100,長さ1500  2ヶ	⑨ダクト用バンド  4ヶ	⑩ダクト用断熱材  2ヶ 120×460×260	⑪ダクトフランジ用断熱材  2ヶ 13×314×60

3. 加湿器取付スペース

図1-1 配置図(上から見る)

C-A1形室内ユニットの場合



機種	A	B
J71・J90形	170	605
J140形	430	1125

図1-2 配置図(上から見る)

ES-A1形室内ユニットの場合

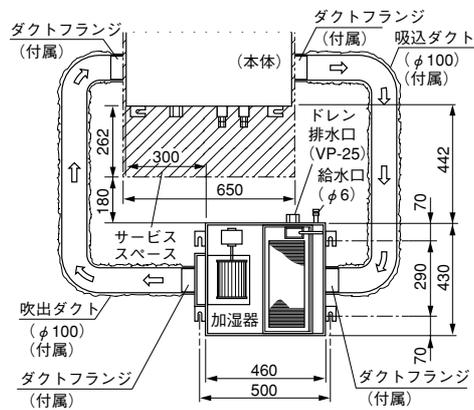
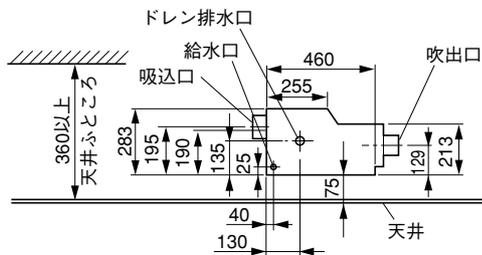


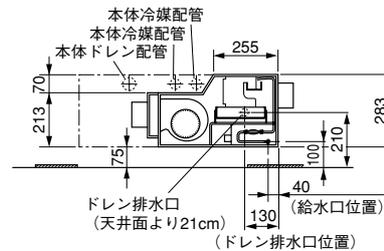
図2-1



※加湿ユニットは必ず水平になるよう施工してください。

※詳細は本体の据付説明書をご参照ください。

図2-2



4. 加湿器の取付方法

加湿ユニットは別吊方式です。加湿ユニットは必ず天井を張る前に吊り込んでください。

(1) エアコン本体工事

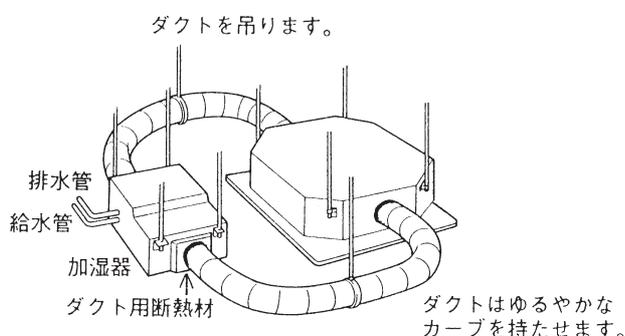
室内ユニットを吊り下げる前に、室内ユニット本体に吸込・吹出ダクトフランジ(加湿器に付属)を取付けます。

(2) 加湿器の取付(天井吊り工事)

図1-1、-2、図2-1、-2のように、室内ユニットの近くに吊り下げます。この際、ユニットにつなぐ冷媒配管・ドレン配管と交差しないよう注意してください。

図3

YAES・C-A1形室内ユニットの場合



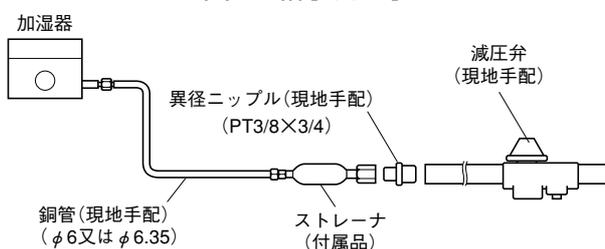
(3) 加湿器への給水管工事

- 供給水……………市水、上水又は同等以上の水質を有する水。
- 供給温度……………5～40℃
- 供給水圧力……………給水は入口圧力が98kPa{1kg/cm²}になるように必ず減圧弁を設けてください。(現地手配)
- 止水用バルブ……………シーズンオフ、又は緊急時などの為に加湿器の配管上流側に止水用バルブを必ず設けてください。(現地手配)
- 配管材・断熱材…加湿器本体に取付けてある電磁弁へは1/4フレアにて接続します。配管材は銅管外形φ6又はφ6.35をご用意ください。配管材、断熱材はすべて現地手配です。

推奨減圧弁

メーカー	形名
ヨシタケ	GD-56H
サギノミヤ	CRV-2006GL@21
三菱電機	GT-7

図4 給水管工事



(4) 加湿器からの排水管工事

- 配管材……………硬質塩ビ管VP25にて排水配管してください。(現地手配)
- 室内ユニットのドレン配管とは別配管とし、排水が流れやすいよう1/100以上の勾配をつけ配管してください。
※ドレンアップよりの内圧がかかり、加湿器からの排水がうまくいかないことがあるためです。

2

YAESJ280P-A1形用
形名：PAC-KB49VP

1. 適用機種

形名	適用機種
PAC-KB49VP	YAESJ280P-A1

仕様

加湿量	5.2kg/h
電源	3相200V(50/60Hz)
消費電力	4kW(50/60Hz)

2. 付属部品

品番	品名	個数	品番	品名	個数	品番	品名	個数
①	ペーパーパン	1	⑤	給水銅管	1	⑨	ネジ(PTT3.5×10)	2
②	ドレンパン	1	⑥	制御箱	1	⑩	ネジ(SUS 5×8)	5
③	取付板 1	1	⑦	リレー(×8)	1	⑪	ゴムブッシュ	2
④	取付板 2	1	⑧	ネジ(PTT 4×10)	6	⑫	ハーフユニオン(ストレーナ付)	1

3. 取付要領

- エアコンの吸込パネルを取外してください。
- ドレンパン②に取付板1③、取付板2④をネジ⑧にて取付けます。
つぎに図1のようにドレンパン②の奥側を本体ドレンパンにのせ、取付板1、2が本体ベースにのるようにしてください。
- ペーパーパン①を図1のようにドレンパン②上にほぼ中央の位置においてください。
吸着ゴム足を浮かし、調整ネジをまわしてゴム足の高さを調整し図1のようにペーパーパンを水平になるようにしてください。
- ユニット側制御箱内にリレー(×8)⑦をネジ⑨で取付けてください。(A部詳細図)
- 付属の制御箱⑥を、ユニット側面(右側もしくは左側)のペーパーパン本体から配線のとどく任意の位置にネジ⑩にて取付けてください。(穴は現物あわせであけてください。下穴径…φ3.8)
- 次に配線、配管の順で作業を行ない、最後に試運転をしてください。

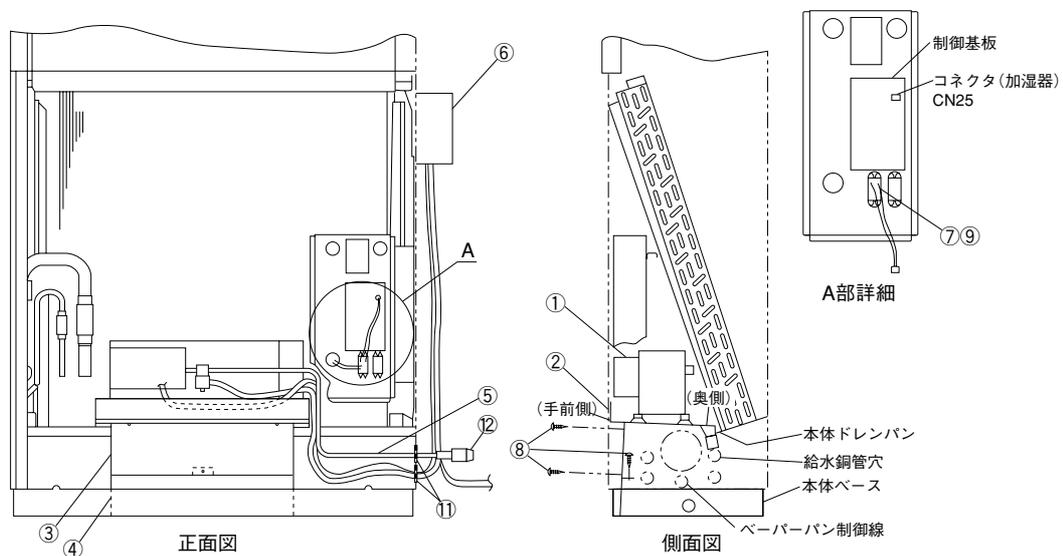


図1

4. 配線要領

このペーパーパンは接触器などを納めた制御箱がペーパーパンと分離していますので下記の要領で配線してください。

ペーパーパンの制御線はサイドパネルのノックアウト穴(図1)より機外に通し、ゴムブッシュ⑪をノックアウト穴に挿着ください。次に図2の要領で配線してください。

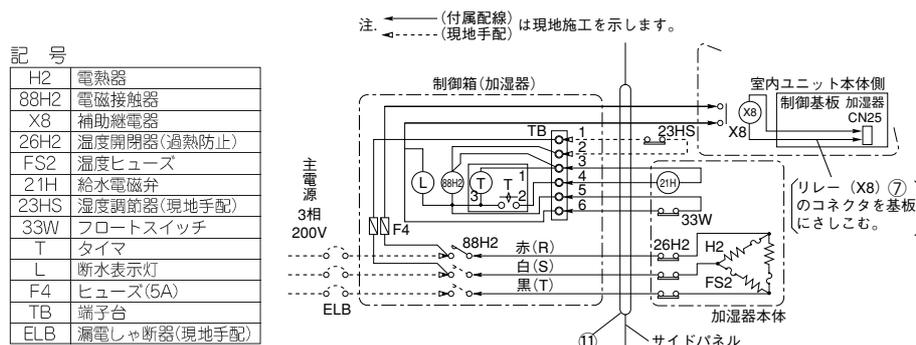


図2

注. 主電源を接続する際は、漏電しゃ断機を設けてください。

(定格電流—15A、定格感度電流30mA 0.1s以下)

5. 配管要領

ペーパーパンの継手にかぶせてあるゴムキャップを外し、給水銅管⑤を使用し、図3のように配管してください。

(給水銅管穴はゴムブッシュ⑪を挿着ください。)

(使用範囲)補給水温 0°C~80°C
水圧 29.4~490kpa
{0.3~5kg/cm²}

※水質が悪い(総硬度100ppm以上)ところは軟水器を御使用下さい。

水道法で上水道との連結は禁止、受水槽など介して接続のこと。

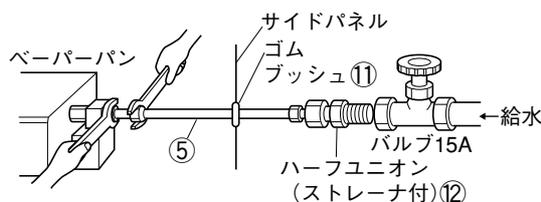


図3

6. 試運転要領

- 1) エアコンのリモコンを「暖房」モードにすると運転を開始します。
(暖房準備中、除湿中は加湿器はONしません。)
- 2) オーバーフローした水が確実にユニット本体のドレンパンに流れ込むことを確認してください。

7. 注意事項

- 1) 断水などで万一水が出ない場合は、保護装置が作動して自動的に運転を停止します。しかし水がないまま長時間運転を続けるとペーパーパンの寿命を縮める原因となりますのでご注意ください。
- 2) 湿度調節器をつけますとさらに快適な空気調和を行なうことができます。